The 7th Basho-an International English Haiku Competition

第7回 芭蕉庵国際英語俳句大会

受賞 結果 result

世界43の国と地域から、1,591句の応募をいただきました。

We received 1,591 haiku(phrases) from 43 countries and regions.

Australia	オーストラリア
Belgium	ベルギー
Bosnia and Herzegovina	ボスニアヘルツェゴビナ
Brazil	ブラジル
Bulgaria	ブルガリア
Canada	カナダ
Croatia	クロアチア
Czechia	チェコ
England	イングランド
France	フランス
Germany	ドイツ
Greece	ギリシャ
Hong Kong	香港
Hungary	ハンガリー
India	インド
Indonesia	インドネシア
Iran	イラン
Israel	イスラエル
Italy	イタリア
Japan	日本
Latvia	ラトビア
Malaysia	マレーシア
Netherlands	オランダ
New Zealand	ニュージーランド
Nigeria	ナイジェリア
Northern Ireland	北アイルランド
Pakistan	パキスタン
Poland	ポーランド
Romania	ルーマニア
Russia	ロシア
Serbia	セルビア
Slovenia	スロベニア
South Africa	南アフリカ
South Korea	韓国
Sri Lanka	スリランカ
Sweden	スウェーデン
Switzerland	スイス
Tanzania	タンザニア
UAE	アラブ首長国連邦
UK	イギリス
USA	アメリカ
Vietnam	ベトナム
Wales	ウェールズ

たくさんのご応募、ありがとうございました。

Thank you for your applications.

長谷川櫂選/　Mr.Hasegawa Selections

《選句結果》

Each day drifts by　　来る日も来る日も漂う
In the mirage of the desert　　幻の砂漠を
A man and his boat　　一人の男と舟

Momeni Khadijeh　　Iran

受賞者からのメッセージ　Winning message

このたび、栄えある芭蕉庵賞の受賞者の一人に選んでいただき、深く光栄に思うとともに、心から感謝申し上げます。今だに世界中の詩人を導き触発する松尾芭蕉の輝かしい遺産を引き継ぐこのコンテストで私の俳句が評価されたことは、誠に身の引き締まる思いです。俳句という芸術を讃える、このような素晴らしい場を作り上げてくださった主催者の皆様、審査員の皆様、関係者の皆様に心より感謝いたします。この受賞を励みに、これからも自然や人が経験することの美しさを探求し続け、時を超えた詩形を通じて人々と共有していきたいと思います。

長谷川櫂先生 講評

海を漂う舟を描く。海は「青い砂漠」であるというのだ。発想が大胆で香り高い俳句である。日本語であれ英語であれ、当然のことだが、俳句で重要なのはまず第一に発想である。発想に詩の爆発あるいはその片鱗がなければ俳句は成り立たない。

入選　Ten Winners

sleepless night -　　眠れぬ夜
from window to window　　窓から窓へ
the moon's wandering　　月がさまよう

Tosti Maria　　Italy

late winter storm　　遅く来た大雪
a pair of antlers stuck　　一対の鹿の角が
in the thicket　　藪で動けなくなる

Nitu Yumnam　　UAE

clutching the air　　空気をつかむ
a raven　　大鴉
on the snow　　雪の上

Ravi Kiran　　India

rugby scrum　　私のテーブルで
at my table　　ラグビーのスクラム
a family dinner　　家族の夕食

France Alicia　　New Zealand

September morning　　九月の朝
the first chill in the air　　二人の間の
between us　　空気に初めての冷気

Rotsteeg Marjolein　　Netherlands

Whale awoken　　鯨が目を覚ます
perpendicular dreaming　　垂直の夢を見て
gently submerges　　静かに沈む

Rob　　Australia

first light –　　夜明け –
the skylark dives　　雲雀が
in its own song　　自分の歌の中に飛込む

Matei Cristian　　Romania

flamingoes　　フラミンゴが次々に
fall on the sea in the sound　　湖に降り立つ
of pink by pink　　ピンクのざわめきとなって

Kajzer Adam　　Poland

my younger son　　下の息子
like a grouse ready　　羽ばたく準備のできた
to take wing　　雷鳥のよう

Gatalica Goran　　Croatia

fake news　　フェイクニュース
the scream of gulls　　魚のはらわたを奪い合う
fighting over fish guts　　鷗の叫び声

Schopfer Olivier　　Switzerland

藤田直子選/　Ms.Fujita Selections

《選句結果》

graduation day	卒業の日
dandelion seeds over	たんぽぽの種は
the barbed wire	有刺鉄線を越える

Cezar Ciobica　Romania

受賞者からのメッセージ　Winning message

この賞を獲得してとても幸せです。この素晴らしい詩（俳句）を生んだ日本のコンペティションでの受賞は本当に素敵なことです。受賞した作品は詩を書き続けることに自信を与えてくれました。私の作品を評価してくれたことに深く感謝いたします。

藤田直子先生 講評

卒業式が終わって外に出ると、たんぽぽの穂絮が飛んで行くのが見えました。それを見て卒業生は、私もこれからは広い世界に出て活動していくことができると思いました。風に乗ってどこまでも飛んで行かれる穂絮は、有刺鉄線も潜って行きました。その種のように、若者は世界のあちこちで分断を作っている壁を解消する力があります。実際の風景を言葉で描きながら、未来への明るい期待を含んでいるところに感動しました。

入選　Ten Winners

Last harvest	最後の収穫
Lone farmer's tear	孤独な農夫の涙が
Nourishing the soil	土の栄養となる

Melissa Rose Lawrence　USA

my younger son	下の息子
like a grouse ready	羽ばたく準備のできた
to take wing	雷鳥のよう

Gatalica Goran　Croatia

boat on the boat	ボートの上にボート
sails in the clouds	雲の中の帆船
on a calm lake	穏やかな湖

Badovinac Katica　Croatia

freshly mown hay –	刈りたての干草－
its scent slowly fills	その匂いがゆっくりと
the old graveyard	古い墓地を満たす

Matei Cristian　Romania

autumn chill	秋の冷え
the scarecrow leans against	案山子はもたれる
its own shadow	自分の影

野村齋藤　Japan

high above	戦場の
the battlefield	遥か上
a sky for all of us	空は我々みんなのもの

Vladislav Hristov　Bulgaria

silence	子供部屋が
in the children's room,	静か
angels	天使だ

Lilia Racheva　Bulgaria

afterglow -	余韻
the lingering sweep	一冊の良書の残した
of a good book	ひと掃き

Gatalica Goran　Croatia

spring promise	春の約束
I allow two frogs	二匹の蛙に
to stay at my backyard	庭にいていいよと

Iyer Lakshmi　India

Whale awoken	鯨が目を覚ます
perpendicular dreaming	垂直の夢を見て
gently submerges	静かに沈む

Rob　Australia

ドゥーグル・J・リンズィー選/　Mr. Lindsay Selections

《選句結果》

a worm curling	虫は体を丸めて
itself into a pea pod	えんどう豆の莢の中にいる
spring dusk	春の夕

Parashar Vandana　　India

受賞者からのメッセージ　Winning message

この光栄を下さった芭蕉記念館と審査員のドゥーグル・リンズィー氏に心より感謝いたします。この賞を二回も受賞したことに謙遜と感謝の気持ちで一杯です。2022年の第四回芭蕉庵国際英語俳句大会の一度目と2025年の今回です。このコンペティションを成功に導いた関係者の皆さんと審査員の努力に感謝し、拍手を送ります。芭蕉庵の幸運と今後のご尽力を望みます。

リンズィー先生講評

微妙なことをとても巧みに表現した詩であり、自然と完全に調和しています！「春の夕」という季語の選択も完璧です。晩春の名残惜しむかのような温かさは眠りを誘い、春の昼の終りに私たちは春そのものの終りを思い、また、蛾や蝶や蜂など何らかの成虫になる前の幼虫という「春の段階」の終りを想起します。豌豆の丸味は幼虫の曲線によっても強調されています。このような昆虫の変態の、その虫が自ら豌豆の莢に変身したのではないか、もしくは、それがただしばらくの間落ち着いているだけなのか、思わず二度見してしまうときの神秘的な感触もあります。

入選　Ten Winners

freshly mown hay –	刈りたての干草 –
its scent slowly fills	その匂いがゆっくりと
the old graveyard	古い墓地を満たす

Matei Cristian　　Romania

visiting day	面会日
a grasshopper lingers	キリギリスが敷居の上を
on the threshold	ふらふら歩く

Capotă Daniela Lăcrămioara　　Romania

breaking news	ニュース速報
a group of dragonflies	蜻蛉の群れが
hovers overhead	頭上に漂う

Friedenberg, Jay　　USA

turtle drifting backwards	亀が漂いながら
a summer's evening	後ろに進む
	夏の晩

Berglund Jerome　　USA

the late train	遅い列車が
rolls into the station -	駅に入って来る -
bindweed in bloom	昼顔が咲いている

Maretic/ Tomislav　　Croatia

heavy rain	どしゃ降り
the heron hunches	鷺は裸の枝の下で
beneath bare branches	背を丸くしている

Paula Sears　　USA

fallow field	休閑地
a bumper crop	星の
of stars	豊作

Valentine / Kevin　　USA

quince jelly	マルメロのゼリー
the necessary force	一日に必要な力
for the day	

Gaiardoni Barbara Anna　　Italy

New Year's Day...	新年…
I notice age spots	バナナのシュガースポットが
on the bananas	気になる

Bremson / Ed　　USA

soft summer rain	やわらかな夏の雨
umbrellas up	雨音を聞くために
to hear it fall	傘をさす

Tony Williams　　UK